

福島第一原子力発電所現地確認報告書

1 確認日

令和7年10月10日（金）

2 確認箇所

- ・瓦礫類一時保管エリアP（P1・P2）（図1）
- ・使用済保護衣等一時保管エリアb（図1）

3 確認項目

- （1）瓦礫類一時保管エリアP（P1・P2）の現況確認
- （2）使用済保護衣等一時保管エリアbの現況確認

4 確認結果の概要

（1）瓦礫類一時保管エリアP（P1・P2）の現況確認

令和3年7月に瓦礫類一時保管エリアP（以下、「一時保管エリアPとする。」）の排水枡において全ベータ値の上昇が確認された。原因は、地震の影響で汚染土壌を保管している2基のノッチタンクの天板がずれ雨水が流れ込み、ノッチタンクから溢水し、当該エリアの地表に溢れ、排水枡に流れ込んだことである。当該事象を受けて、東京電力では次の対策を講じた。

- ① 瓦礫類を保管しているノッチタンクやコンテナへの耐候性シート養生
- ② 万が一漏えいした水が側溝に流入しないよう、側溝の境界部等に土嚢を設置
- ③ 放射性物質を含んだ水が直接陳場沢川へ流れないように排水路内に放射性物質を吸着させるゼオライト土嚢の設置

本日は、その現況を確認した。（前回確認：[令和6年3月19日](#)）

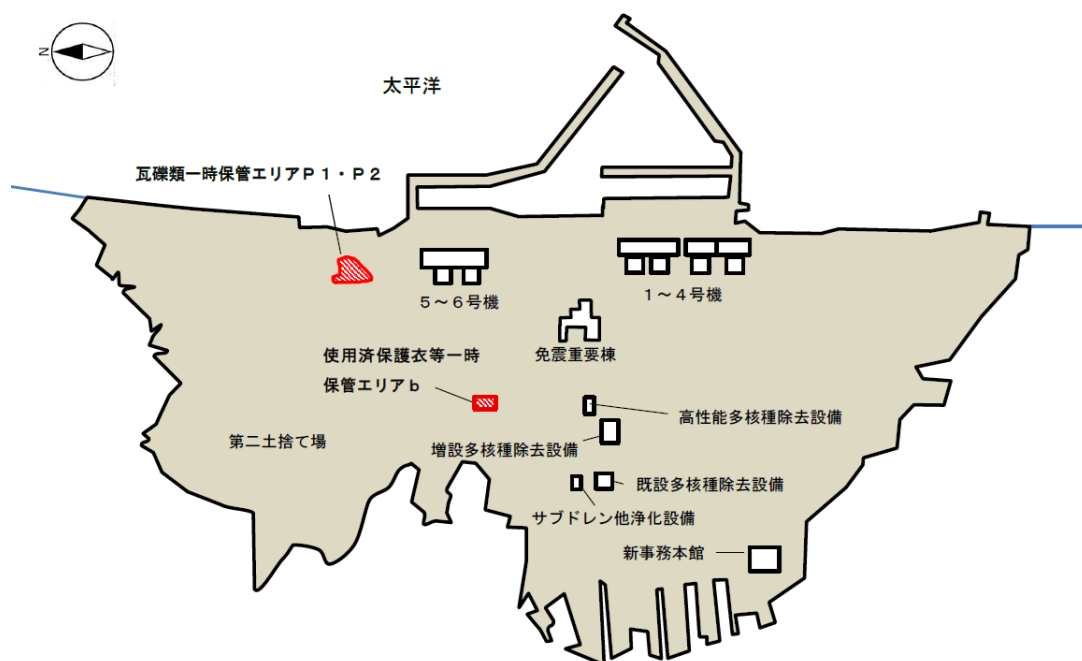
- ・汚染土壌を保管しているノッチタンクを確認したところ、耐候性シートが外れないよう養生ネットでしっかりと固定されていた。また、耐候性シートが破れているものは確認されなかった。（写真1）
- ・排水路内にゼオライト土嚢が2～3m間隔で設置されている事を確認した。また、排水路内にゴミ等は、溜まっておらず定期的に清掃されていた。（写真2）
- ・一時保管エリアP1において、一時保管されている1m³コンテナ数が半数程度まで減少していることを確認した。使用済保護衣等一時保管エリアbへの搬出作業が進捗していた。（写真3）
- ・P2エリアでは汚染土壌を10ft ハーフハイトコンテナに詰め替える作業が行われていた。（写真4）

- ・確認した範囲では、当該エリア内に保管されているコンテナに転倒や傾きは確認されなかった。また、内容物の飛散や流出等も確認されなかった。

(2) 使用済保護衣等一時保管エリア b の現況確認

一時保管エリア P に保管されている 1 m^3 コンテナ（内容物は全て可燃物）が使用済保護衣等一時保管エリア b（以下、「一時保管エリア b」とする。）に搬入されていることからその状況を確認した。（前回確認：[令和4年3月18日](#)）

- ・一時保管エリア b は、作業エリア（エリア西側）とコンテナ保管エリア（エリア東側）に分かれており、作業エリアは G ゾーンに、コンテナ保管エリアは Y ゾーンに設定されていた。また、一時保管エリア P から搬入された 1 m^3 コンテナが保管されていることを確認した。（写真 5）
- ・作業エリアには作業台が設置され、 1 m^3 コンテナ内容物を仕分けする作業が行われていた。また、 1 m^3 コンテナ開封作業も併せて行われていた。（写真 6）
- ・現地確認時には、コンテナ保管エリアにある 1 m^3 コンテナをフォークリフトを使って作業エリアに運搬する作業が行われていた。作業の際は、フォークリフトの前後に誘導棒を持った誘導員が配置され、声かけをし安全を確認しながら作業が進められていた。（写真 7）
- ・確認した範囲では、コンテナに転倒や傾きは確認されなかった。また、内容物の飛散や流出等も確認されなかった。



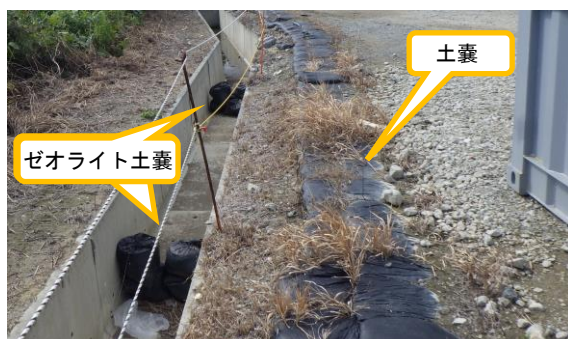
(図 1) 福島第一原子力発電所構内概略図



(写真 1)
ノッチタンク保管状況



(写真 2 - 1)
排水路の状況 (一時保管エリア P 1
北側)



(写真 2 - 2)
排水路の状況 (一時保管エリア P 2
東側)



(写真 3)
一時保管エリア P 1 のコンテナ保管
状況



(写真 4－1)
汚染土壌詰め替え作業の状況①



(写真 4－2)
汚染土壌詰め替え作業の状況②
(詰め替えた汚染土壌を均一にならしている様子)



(写真 5－1)
一時保管エリア b の外観



(写真 5－2)
一時保管エリア b 東側の状況
(1 m³コンテナの仮置き場所として利用)



(写真５－３)
一時保管エリアb西側の状況
(作業エリアとして利用)



(写真６－１)
分別作業の状況



(写真６－２)
1 m³コンテナ開封作業の状況



(写真７)
フォークリフト使用時の状況

5 プラント関連パラメータ確認

各パラメータについて、異常な値は確認されなかった。